

分たちで考え、NPO同士でメンバーを増やして安上がりにする方法を編み出すなど面白い結果が出た。



もったいない運送を初めて体験し、木の破片を運ぶソーシャルドライバー

自社のトラックを提供し、休みの運転手をボランティアとして募集し、もったいない運送を実験した提供先の評価だが、事業者としては維持費とガソリン代程度の負担しかないし、ボランティアで働いた社員は訪ねた各地のNPO団体などと交流できて新鮮

だったと感動している。利用者はむろん、大変喜んでくれている。三方得の感触から、みんなが助け合い、捨てるものを活かすもったいない運送を広げ、地域の人たちと問題解決の事例を増やしたいと考えている。

そのために 新たに価格体系を3つのカテゴリで考えてみた。

1. 積み下ろしをボランティアで手伝ってくれば、NPO価格としてガソリンだけの負担とする。
2. 積み下ろしは手伝えないけど、「もったいない」という概念に該当すれば、営業用の運賃価格表より安い価格とする。
3. 通常の営業用価格とする。

## 国際

## インドでのコミュニティビジネス実現で世界に貢献できる人材に！

有限会社鹿毛運輸 安武智史

### ■もったいない運送のインドでの実現性

僕らは、もったいない運送普及のため、6月28

### ■「新たな公」としての具体的構想内容

高い運賃を払ってまでして、もったいないものを運ぶことはできないが、環境価値を加えたり、ピアノ等のように自分の思い出を誰かに残したいという心価値を加えたら、持続社会としては、もったいない、は採算点を越えた価値になるのだと思う。料金の仕組みも目的実現のために個別に作り、地域にある財を活用できる仕組みができ、環境問題の解決に貢献する。これこそ、新たな公共なのではないだろうか？ 柔道で言えば、「有効」がいくつか組み合わせさせて「一本」となり、勝利するという感じである。

- これから具体的にやることは、
- 捨てられてしまう「もったいない」モノの流通活用
- 体を動かせる人は

- ボランティアで協力することで生まれるコミュニティ意識
- 運送事業者は休みの日などに
- トラックを提供することで地域に貢献
- 効率の良い配送経路のプログラム開発

といったことだ。そして、誰でもが、この仕組みを使えるようにして、モデルとして全国に広げる。これが私が考える、もったいない運送による「新たな公」の概要である。

今後は、朝倉市地域公共交通活性化協議会の委員としていろいろ提案を行い、地域を巻き込んで、実証実験を実現していきたいと考えている。